

山梨放送

活動名	メディアリテラシー出張授業
実施期間	令和 5 年 11 月 14 日、11 月 15 日
実施回数	学校 2 回

【実施学校】 駿台甲府小学校

【事業実施の成果・課題】

私立小中高一貫校である駿台甲府小 5 年生 2 クラス 75 名を対象に実施。参加児童にはワークシートを用意し、こちらの解説や DVD 視聴を通じて各自の感想や学んだことを書き込んでもらった。授業冒頭で山梨放送の主な自社制作番組について、視聴経験があるかどうか聞いたところ、ほぼ全員に視聴経験があり、導入の解説から興味深く聞いてもらえた。「ニュースができるまで」の DVD 視聴は主人公・熱血太郎の失敗に笑い声が聞かれた一方、テレビニュースに必要な「速報性」「正確性」「公平性」「公共性」について熱心にメモを取る様子が見られた。

対象校は各児童が iPad を授業で活用していることから、動画撮影の基本を実際に動画撮影しながら解説。もっとも基本的なカメラワークを操作できるようになることで、分かりやすく見やすい映像が撮れることを実践的に学んでもらった。児童の感想に撮影方法の基礎を勉強できてよかったという感想が多く、動画撮影への興味が高いことがうかがえた。

グループワークでは学校のトピックスを伝えるニュースを各自で考えてもらい原稿化、班ごとに 1 名キャスター役を決めて、発表してもらった。自分の心が動いたことを誰かに伝えることがコミュニケーションの第一歩であり、より大勢の人に伝えるためにメディアが存在することを体験的に知ってもらうことができたのではないと思う。ニュースができるまでを知ることができたという記入してくれた児童が多いので、メディアとは何かを理解する第一歩になったのではないかと感じた。

中学生対象の弊社独自の夏休み体験会ではニュース動画づくりを行っているため、今回もできないかと考えたが、予算・時間的な制約があり今回は見送った。

【事業担当者の感想】

メディアリテラシーをテーマに、小学生を飽きさせずに集中して聞いてもらうことは難易度が高いと感じたが、実際に動いたり、考えたりしてもらうワークショップ形式にしたことで、飽きずに学んでもらうことができたと思う。ビデオリサーチの調査では 18 歳以下のメディア接触時間の内、テレビへの接触率が高くなるのが小学校高学年ということで、その層を対象にメディアリテラシー授業を行うことは意義が大きい。テレビメディアへの信頼性、親和性も高めることができたのではないかと感じた。

【教諭・子どもたち・視聴者などの感想】

＜担当教諭の感想＞

VTR の視聴や、模擬編集会議、iPad を使った動画撮影等々、多彩な内容で、はじめは緊張して硬くなっていた児童たちが、徐々に活発になっていった姿が印象的であった。時間に余裕があれば、取材～ニュース動画の作成～キャスターによる発表という一連の流れを取り組ませてみたいと思った。

<子どもたちの感想>

- ・間違いのないテレビニュースが放送されるまでに大勢の人が関わっていることを知ることができた。
- ・映像の撮り方を教えてもらい家でもやってみようと思った。ニュースも見てみようと思った。
- ・ニュースがどのようにできているか知ることができた。ニュースやテレビの仕事に興味を持った。

<視聴者の感想>

- ・メディアリテラシーの講座を地元局が行っていることを初めて知った。多くの学校で行ってほしい。
- ・正確なニュースは社会インフラであり、フェイクニュースが溢れる昨今、小学生にメディアの大切さを伝えることは大事だと感じた。